

さまざまな年代向けの施策で、 多彩な食育活動を展開

「食選力=食を選ぶ力」を育てるために

森永乳業ではこれまで、小学生向けの出前授業、キッザニア東京・甲子園の「ミルクハウス」ハビリオンでの「ミルクフードメーカー」体験、出張料理講習会「M'S Kitchen」など、乳幼児からシニアまでを対象に、さまざまな食育活動を行ってきました。

これらの活動を通して私たちが大切にしていること、それは、健康のために食を選ぶ力=食選力を育てること。生きる上で大切な情報を自ら選び取り、行動していくスキルを学ぶことです。さらには、情報が氾濫する世の中を自分の力で切り拓くための

きっかけになれば、という思いも込めています。

社員が積極的に食育活動に参加できる体制に

これまで各事業部門単位で行ってきた食育活動を、今後は森永乳業全体で推進していく体制づくりに注力していきます。

まず、食育に関する基本方針を明文化し、社員が活動に参加しやすい環境を整えていきます。将来は、部門の垣根を越えた活動を増やし、森永乳業全体として食育活動をさらに発展させていきたいと考えています。

人を育てる



自分に合った食品を選ぶ「食選力」を身につける

小学校向け出前授業

2015年より首都圏の小学生を対象に、当社社員が講師となる出前授業「パッケージから牛乳の秘密を探ろう」を行っています。

牛乳と低脂肪牛乳の違いを五感を使って比較したり、パッケージから情報を読み取る力を身につけることで、他の食品を選ぶ時にも応用できる「食選力」を学ぶプログラムです。

授業後には、子どもたちから「牛乳にこんなに栄養があるなんて」「これから食品はパッケージをよく見て選びます」などの感想が寄せられています。「食選力」は「生きる力」にもつながります。これから牛乳で養った知識や経験を活かして、子どもたちの食育支援に取り組んでまいります。



都内小学校での出前授業。牛乳と低脂肪牛乳を比較する子どもたち

森永乳業の食育方針

笑顔のために

全世代のかげやく「笑顔」のために、共にはぐくむ、共にたのしむ、共にまなぶ。多様な暮らし方やあふれる情報など、食を取り巻く環境は変わり続けます。私たちはお客さまに寄り添い、毎日と未来のために、笑顔と健康な暮らしを食育活動で共に支えます。

共にはぐくむ

次世代の心と体のすこやかな成長と挑戦を応援します

共にたのしむ

感動とたのしむ場を提供します

共にまなぶ

健康に生きるために役立つ知識・情報をお伝えします

森永乳業の食育活動

はぐくむ ● たのしむ ● まなぶ ●

乳幼児

乳幼児期の育児・栄養相談 ●●

乳幼児期の食生活について、栄養士がアドバイスします。

ビビダス幼稚園キャラバン ●●●

オリジナル絵本やクイズ、ダンスで、元気なおなかとビフィズ菌について共にまなびます。

子ども

リトルエンゼル 森と食の探検隊 ●●●

野外体験や自然探索、酪農・農業体験を通して「生きる力」を発見する場を提供します。

キッザニア東京・甲子園 ●●●

「ミルクハウス」ハビリオンで「ミルクフードメーカー」を体験します。

出前授業 ●●●

さまざまな情報が掲載されているパッケージを読み解き、食を選ぶ力を養います。

アスリートのためのスポーツ栄養講座 ●●●

日々激しい運動を行っているアスリートやジュニアアスリートとその保護者や指導者を対象とした栄養講座です。

成人

M'S Kitchen ●●

オリジナルのミルク和食などのレシピや、健康的な食生活について共にまなびます。

シニア

高齢者向け健康栄養教室 ●

自治体事業などとタイアップした、健康に関する簡単な測定体験と、未病改善、介護予防のための栄養教室です。

フィットネスジム健康栄養講座 ●

首都圏内のフィットネスジムで開催している、健康の維持・増進に役立つ栄養講座です。

大自然の中での体験を通し、生きるために必要な力を養います

リトルエンゼル 森と食の探検隊

今年で、3年目となる「リトルエンゼル 森と食の探検隊」は、小学校4～6年生約30名を対象とした、野外・農業体験教室です。電気もガスもない自然の

中での、4泊5日の探検生活。野菜の収穫体験、酪農体験、木登り、工作、工場見学など、さまざまな「食べる」「創る」「遊ぶ」を通して、仲間たちと協力しながら「生きる上で大切なモノを自ら発見する」ことをめざします。

参加した子どもたちが、学校や地域でまわりの子どもたちにより影響を与えることで、日本中の子どもたちに元気で、前向きになってほしいという願いを込めて、毎年議論を重ね、プログラムを改良しています。



探検隊に参加した子どもたちとスタッフ

創業100周年
事業

学校・医療施設の修繕活動で
インドネシアの子どもたち(3-6歳)を支援

森永乳業が50年以上にもわたり粉乳事業を展開してきたインドネシアの社会に感謝の意を表し、同国での育児用粉乳事業におけるパートナーのカルベ社と共同し、対象年齢3～6歳で構成される現地のプレススクール・小学校の修繕活動を実施します。



乳業メーカーの責務として、酪農の維持、発展に注力

酪農の現状を踏まえ、多面的な支援を展開

1960年代、日本の酪農家戸数は40数万戸。以降、その数は減少し続け、2016年度には全国で16,400戸（※1）と、ピーク時の25分の1となっています。一方で、飼養規模の拡大により1戸あたりの飼養乳牛頭数は増え続け、年間735万トン（※2）の生乳生産を担っています。しかし、生乳生産は1996年度の866万トンをピークに減少を続けています。牛乳・乳製品の国内消費量は生乳に換算すると年間1200万トンといわれ、その約4割を輸入に頼っていることとなります。

一方、世界に目を向けると、人口は75億人にせまり、東南アジアなど人口が増加している地域では特に子どもの数が増え、育児用調製粉乳など乳製品の需要が高まっています。しかし、これらの地域は気温が高いなど酪農に適さない地域であることが多く、輸入に頼らざるを得ない状況にあります。世界的に生乳生産を拡大できる地域は限られており、年々増加する乳製品需要への対応が懸念されています。国内でも、世界にとっても、食料供給産業としての酪農の持続的な発展は重要な課題のひとつです。

こうした状況を踏まえ、森永乳業グループでは、酪農家への多面的な支援、酪農技術の研究・開発などに積極的に取り組んでいます。

森永酪農振興協会による酪農家支援、酪農振興

1968年に森永乳業の創立50周年を記念して財団法人森永酪農振興協会が設立されました。同協会ではこれまで50年にわたって、さまざまな形で酪農家を支援してきました。全国の特徴ある優秀な経営を紹介する酪農経営発表大会の開催や、地域の優秀な酪農家を視察して実地で情報交換するパン・ミーティングの実施、国内外の優良な酪農技術・知見を紹介する講

演会の開催などを行っています。過去には酪農後継者の国内外での研修支援なども行い、酪農の持続的発展に寄与してきました。

酪農の社会的存在価値のさらなる向上をめざして

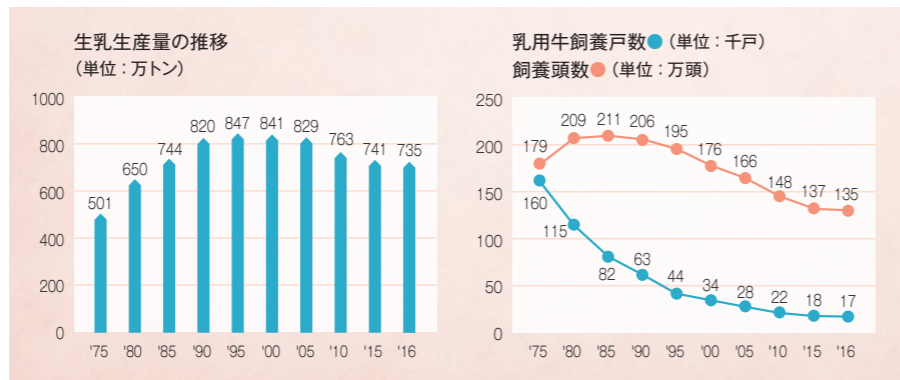
今、酪農の直面する課題に対応していくために、“酪農家と生活者の距離を縮める”ことがひとつの糸口になる、と森永乳業は考えています。

森永乳業では酪農部員が、酪農家を直接訪問し、酪農家の抱える課題や悩みをお聞きするとともに、消費市場や農業政策の情報を提供する取り組みを実践しています。消費市場と酪農生産現場をつなぐパイプ役として、酪農の現状について社内で情報共有し、消費市場との双方向の情報提供に反映させていくことを目的としています。さらに近い将来には、生活者の方々に酪農生産現場にご招待することも計画しています。

このような取り組みを通じ、生活者に酪農の果たす役割や酪農家の努力を知っていただき、牛乳・乳製品の価値向上のみならず、酪農の社会的存在価値を改めて認識していただくことにつなげていきたいと考えています。



酪農家とコミュニケーションをとって、消費市場と酪農生産現場をつなぐパイプ役をめざします。



出典：農林水産省

(※1)「畜産統計(平成29年2月1日現在)」(農林水産省) (※2)「牛乳乳製品統計」(農林水産省)

仕組みを育てる

酪農家の“顔が見える”牛乳をつくりました

「北海道プレミアム 美瑛牛乳」

美瑛町の代名詞ともいえる“パッチワークの丘”と青空をパッケージに刷り込んだ「北海道プレミアム 美瑛牛乳」。森永乳業のグループ会社である北海道保証牛乳が開発し、製造・販売しています。首都圏を中心に、プレミアム牛乳として高価格帯での販売をしています。

「北海道プレミアム 美瑛牛乳」は、美瑛町の27戸の酪農家が道内でも有数の良質な生乳を生産していることに注目し、産地を美瑛町に限定して開発しました。消費者には生産者の“顔が見える”価値を提供。首都圏で高級ブランドとして販売されることで、生産者には安定的な生乳供給とさらなる品質向上のモチ



上：広大な緑の大地が美しい夏の美瑛
左：美瑛の風景が印刷されたパッケージ

ベーションとなっています。ホクレン、美瑛町農協にもこの取り組みをご理解いただき、産地限定での生乳集荷を実現しています。

この「北海道プレミアム 美瑛牛乳」の生乳を使って、美瑛地区の学校給食用牛乳を提供しています。良質な牛乳は、地域の皆さんの誇りでもあるのです。

大学と連携して、技術面で酪農家をサポート

山口大学との共同研究

酪農家戸数、生乳生産量の減少とともに、乳用牛の不足は日本の酪農にとって大きな問題です。森永乳業のグループ会社である森永酪農販売では、飼料販売業務を通して飼料コンサルティングを実施することで、乳牛の栄養管理・繁殖管理、酪農家の環境管理などをサポートしています。これに加えて、山口大学共同獣医学部とともに、熊本県人吉・球磨地域において受精卵移植業務、繁殖検診などに関わり、共同研究を行っています。集めたデータの分析結果は改善提案として酪農家にフィードバックし、酪農経営の安定化や乳

用牛資源の拡大などに役立つことをめざしています。

また、球磨酪農農業協同組合、地元畜産農家の協力のもと、獣医学部の学生実習の受け入れや、若手酪農家に人工授精などの技術講習会を行うなど、酪農・畜産の生産現場における若手の担い手の育成に努めています。



上：血液サンプル採取の様子
左：山口大学ラボ